

～全身麻酔法～

有害な整体販社を抑制し不働化を目的に、歯科麻酔科医や麻酔科医協力のもと、各種麻酔薬を使用して完全な意識消失下で歯科治療を行う方法。

無意識下のため患者の状態に左右されず、安全に質を維持した治療を行うことができる。患者の体動が完全に抑制され、同時に気道確保が確実に行えるため、多数歯をまとめて完成度の高い治療を行うことができる。

入院下で行う場合と日帰りで行う場合があり、日帰り全身麻酔の治療時間は2時間以内が目安となる。

全身麻酔下歯科治療の利点と欠点	
利点	欠点
多数歯の処置をまとめて行える	全身麻酔のための設備と人材が必要
治療の完成度が高い	術前の検査や経口摂取制限等が必要
治療中の患者本人の理解と協力が不要	入院が必要となることがある
体動抑制に伴う心的外傷を残しにくい	

(適応症)

- 多数歯の処置を短期間のうちに行いたい場合
- 治療の質を維持するために全身麻酔が有利な場合
- 緊急の処置が必要でトレーニングのための時間的余裕がない場合
- 治療時間が長いことが予想される場合
- 患者の精神的・身体的理由から全身麻酔が有利と考えられる場合

(日帰り全身麻酔の適応症)

- 全身状態が良好
- 気道確保が容易
- 治療の侵襲が大きくない
- 治療時間が概ね2時間以内
- 静脈内鎮静法で治療が困難
- 局所麻酔剤にアレルギーがある

****無意識下の治療（全身麻酔法）は、連携先病院に紹介となります****

(参考資料)

日本障害者歯科学会編集：スペシャルニーズ デンティストリー 障害者歯科 第2版
スペシャルニーズデンティストリー ハンドブック 障害者歯科医療ハンドブック 改訂版
歯科診療における 静脈内鎮静法ガイドライン -改訂第2版(2017)-